

第1回 第3次石狩市観光振興計画策定委員会 議事録

日 時：令和3年7月27日（火） 13：30～14：30

場 所：石狩市役所 5階 第一委員会室

出席者：次のとおり

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
委員長	秋井 卓也	○	委 員	大内 幸二	×
副委員長	南 誠	○		和田 郁夫	×
委 員	嶋田 拓馬	○		平塚 光悦	○
	岸本 教範	○		久保田 陽子	○
	木村 邦博	×			

事務局：石狩市長 加藤 龍幸

企画経済部産業振興担当	部長 本間 孝之
企画経済部商工労働観光課	課長 吉田 学
企画経済部商工労働観光課観光担当	主査 渡部 隆弘
企画経済部商工労働観光課観光担当	主事 中村 洸太
企画経済部商工労働観光課観光担当	主事 佐藤 薫子

傍聴者：2名

議 事：1. 開会

- (1) 委員委嘱状の交付
- (2) 挨拶（石狩市長 加藤 龍幸）
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長及び副委員長の選任

2. 委員長挨拶

3. 提言依頼

4. 議題

- (1) 石狩市観光振興計画について
- (2) 第2次石狩市観光振興計画の振り返りについて
- (3) 第3次石狩市観光振興計画の骨子（案）について

5. その他

6. 閉会

議事録（要点筆記）

1. 開会

（1）委員委嘱状の交付

- ・机上配付

（2）挨拶（石狩市長 加藤 龍幸）

- ・省略

（3）委員紹介

- ・省略

（4）委員長及び副委員長の選任

【平塚委員】

- ・事務局に一任する。

【一同】

- ・異議なし。

【事務局 吉田課長】

- ・事務局にて委員長に秋井委員、副委員長に南委員に就任いただきたい。また、会議録については、内容は要点筆記とし、会長の確認とさせていただきたい。

【一同】

- ・異議なし。

2. 委員長挨拶

【秋井委員長】

- ・第3次石狩市観光振興計画が更なる地域の発展と繁栄に寄与するため、本策定委員会にて練り上げていきたく、委員の皆さまにご協力をお願いしたい。

3. 提言依頼

【石狩市長 加藤 龍幸】

- ・第3次石狩市観光振興計画の策定について、第3次石狩市観光振興計画策定委員会設置要綱第2条の規定に基づき、諮問する。

（諮問書の手交）

4. 議題

(1) 石狩市観光振興計画について

【事務局 渡部主査】

(資料説明)

- ・観光振興計画は、本市の最上位計画である「石狩市総合計画」に基づく産業振興関連計画の1つに位置付けられる計画である。
- ・本市では、平成19年に初めて「観光振興計画」を策定し、石狩の宝を発見して磨き、観光のまちづくりで地域を潤す「石狩の宝発掘宣言」という理念のもと、観光施策を進めてきた。
- ・その後、平成29年に現行の第2次観光振興計画を策定し、「地域個性を活かした観光で潤う」、「持続可能な観光で潤う」という2本の基本方針のもと、更なる観光まちづくりの推進に努めてきたところであり、本年度が第2次観光振興計画の最終年度である。
- ・第3次計画の策定体系として、策定委員会で計画案について審議いただき、他産業との調和や官民連携の推進を図ることとし、石狩市観光まちづくりワークショップにより観光業を営まれる方や市内で石狩のために活動されている方の生の声を汲み上げ、今後の市の観光分野に係る目指すべき方向性や具体的施策を抽出し、計画に反映する。
- ・その他、国や北海道の施策や知見を踏まえるとともに、パブリックコメントによる多様な市民意見を収集することなどを通じて、実効性のある計画づくりを進める。
- ・策定スケジュールは、第2回目の策定委員会を10月上旬、第3回目を11月下旬に予定しており、第3回目までに原案を作成する。
- ・12月の総務常任委員会で原案を報告するとともに、年明けにパブリックコメントを1か月間実施することを予定している。
- ・これらの過程を踏まえ、2月に開催する第4回目の策定委員会において最終案を審議いただき、今年度末までに計画を策定する。

(2) 第2次石狩市観光振興計画の振り返りについて

【事務局 渡部主査】

(資料説明)

- ・観光振興計画は、産業振興関連計画の1つであり、農業振興計画、漁業振興計画、地場企業等活性化計画と連携し、「産業を支えるに担い手の育成」、「物産振興体制の確立」、「石狩ブランドの確立」、「道の駅石狩「あいろーど厚田」を起点とした産業・観光振興」の4つを連携項目として、共通テーマに「地域づくりの基盤としての観光を視点とした産業振興の推進」を設けている。
- ・第2次計画は、「地域個性を生かした観光で潤う」、「持続可能な観光で潤う」の2本の基本方針のもと、5つの基本施策と重点的な取組に細分化している。
- ・重点的な取組として、「海辺の魅力アップ」では、アウトドア車椅子の整備や、車椅子の移動を簡便化するアクセスマットの導入などのユニバーサルビーチの推進や海辺の賑わい事業、石狩灯台の一般公開やライトアップなどに取り組んできた。
- ・「魅力ある観光ルートづくり」では、石狩管内の道の駅を設置する5市町村で連携を目的としたプロジ

ェクトチームや、留萌市、増毛町、北竜町との連携強化によるインバウンド需要の強化を目的とした「ひまわり夕陽ロード形成事業推進協議会」、「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」への参画などにより、広域的な観光施策に取り組んでいる。

- ・「海外へ向けた情報発信」では、英語版の観光パンフレットの制作や観光プロモーション映像の制作、広域的な協議会により中国や台湾などに対するPRを行っている。
- ・「サケやニシンの歴史・文化の発信」としては、出前講座によるサケ育を進めるほか、小樽市と共同で北前船寄港地フォーラムを開催し、広くニシン文化のPRを行った。
- ・まちガイドの育成・支援としては、市民による観光案内等の活動に関する支援などを行っている。
- ・観光入込客数は、平成27年度に初めて200万人を超え、それ以降、堅調な入込で推移していたが、令和2年度はコロナの影響により、公設の海水浴場の開設や三大秋祭りの中止、道の駅やヴィジターセンターなどの観光施設の閉鎖等により大きく減少。
- ・月別の観光入込客数は、5月の戸田記念墓地公園の桜が見頃の時期と、海水浴やライジングサン、三大秋祭りがある8、9月の入込が多くなっているが、ハマナスが見頃である6月の入込が少ないことから、6月の本町地区の入込を増加させることが課題である。
- ・冬期間は、天候等の影響も大きくイベント等の開催も困難なことから、入込が極めて少なくなっており、冬期間の観光コンテンツの発掘・磨き上げも課題である。
- ・観光入込客数の地区別割合を平成27年度と令和元年度で比較すると、平成30年に道の駅が開業したことにより、入込客数全体のうち、厚田区の割合が33.2%から47.0%と大きく割合が増加しているが、浜益の割合は増加しておらず、札幌方面からの観光客を厚田以北へ北上させることが課題である。
- ・施設別観光入込客数は、道の駅に年間43万人が来場するようになったが、それを除くと厚田区としては9万人の減少、市域全域としては、30万人の減少となっているため、道の駅を目的地とする観光客は増えたものの、そこから他施設へ周遊がされていないということが課題となっている。
- ・令和3年度の市の取組事業として、道の駅が4年目に入り、1～3年目までの第1フェーズにおいては、道の駅自体の認知度向上や入込増加を図ってきたが、4～6年目の第2フェーズにおいては、道の駅を目的地とする観光客は増えたものの、そこから他施設へ周遊がされていないという課題を解決するため、道の駅を中心とした市内周遊を促進し、地域経済の活性化を図ることに注力している。
- ・具体的な取組について、着地型観光の推進として、石狩北部地域の観光スポットをまわって謎を解く「謎解き周遊事業」の実施、名刺サイズで市内飲食店や観光名所を紹介するカードを制作し道の駅で配付をしている。
- ・道の駅石狩は、「完走者が選ぶ北海道「道の駅」ランキング」の景色がきれい部門において2年連続で2位となっており、展望デッキ等から望む夕陽が大きな魅力であることから、夕日の定点カメラの設置し映像を配信。
- ・コロナ収束後のインバウンド需要を見越した観光プロモーション映像の制作などを行っている。
- ・近年の新たな観光資源として、冬の石狩浜に生じる氷の結晶「モンスターアイス」や、宿泊施設である「スーパーホテル」の建設、コストコの開業などがある。
- ・石狩の特産品としては、銘菓「サーモンパイ」や「ふじみやのどら焼き」などに加え、イシカリーなどの新たな特産品も増えている。
- ・道の駅では、おかずの駅「ほっ」のたこ飯が一番人気で、次いで、厚田産なましいたけ、黄金（こがね）

ピーマンとなっている。

- ・道の駅の新商品として、平成 30 年から 4、7、14、24 商品と開発数は増加傾向にあり、飛ぶ鳥農場の海の街シフォンや寺山ファームの黒毛和牛のビーフカレーなどがある。
- ・平成 29 年には、新石狩ブランドスタートアッププロジェクトとして、地場産品のブランド化を目指したプロジェクトを進め、きむら果樹園の樹齢 100 年を超えるりんごの原木が現存しているというストーリーに着目し、「100 年リンゴのラングドシャ」を制作。
- ・10 ページから 12 ページは参考資料である。

(3) 第 3 次石狩市観光振興計画の骨子（案）について

【事務局 渡部主査】

(資料説明)

- ・策定委員会による審議に加えて、観光業を営まれる方や市内で石狩のために活動されている方の生の声を汲み上げ、今後の観光分野に係る目指すべき方向性や具体的施策の抽出しを行う目的で、ワークショップを開催。
- ・参加者としては、記載しているとおり市内の観光事業者・団体等の 30 名程度。
- ・ワークショップは、6 月 29 日、7 月 15 日、7 月 26 日の全 3 回を開催。
- ・ワークショップの中では、株式会社北海道宝島旅行社の鈴木 代表取締役社長による講演で、コロナ禍における観光情勢の変化、着地型観光やシビックプライドなどをキーワードとした情報提供をいただいた。
- ・石狩で取り組まれている観光に関する取組を知っていただくため、本町・厚田・浜益の各地区で活動されている 3 名の方に事例紹介をいただき、ディスカッションを実施。
- ・テーマ「観光の仕事でこれからも大切にしたいこと」として、得たものや、失ったものを踏まえ、出た意見を、3 ページ目にグルーピングして表示。
- ・特に緑枠で囲っている「地域のつながり・連携」、青枠で囲っている「地域への愛着・誇り」に関する意見が多く出された。
- ・「石狩の観光で大事なこと・もっと力を入れたいこと・市民にとって観光で大事にしたいこと」という 3 つのテーマで、グループディスカッションを行った結果を 4 ページ目に表示。
- ・「市民がまず石狩市の魅力を知ること」、「市民に魅力を知ってもらうこと」、「そして市民が発信すること」の意見が多く出された。
- ・これらの意見を基に、目指すべき方向性を整理した。
- ・もともとある素晴らしい自然環境や景観、歴史・文化、地元産業、人材も含め地域資源の活用、磨き上げ、そして未来に残すために継承、保全することが重要である。
- ・市民がその地域資源の魅力を知り、地域を好きになることで、それを伝え、広めることで観光客を呼び込むことにつなげることが重要である。
- ・観光客を呼び込むことで地域がうるおい、その資金で資源の磨き上げ、継承、保全につなげ、好循環を図ることが重要である。
- ・これらに地域資源の持続可能性、継続性を交え、「住み続けたい、何度も訪れたいまち」を目指すべき方向性として整理した。

- ・第2次計画の振り返りやワークショップでの意見を踏まえて、5ページ目に第3次計画の骨子（案）を記している。
- ・基本施策として、前計画と同様に、「地域個性を生かした観光で潤う」と「持続可能な観光で潤う」の2つを掲げ、6つの「基本施策」と、13の「重点的な取組」としている。
- ・「地域個性を生かした観光で潤う」における基本施策では、「着地型観光の推進」と「食を通じた誘客促進」を追加している。
- ・「着地型観光の推進」として、コロナ禍における密を避けた旅行である自宅から1～2時間圏内を巡る日帰り旅行が注目されていることから、道の駅を拠点とした着地型観光の更なる拡充や、広域的な観光ルートづくりを進めたいと考えている。
- ・「食を通じた誘客促進」としては、農水産物を活用した食と特産品がの魅力発信を行うとともに、道の駅やとれのさとなどでの販売促進・支援を行っていききたいと考えている。
- ・「持続可能な観光で潤う」では、重点的な取組にて、シビックプライドの醸成と観光資源・自然環境の保護・保全を新たに加えている。
- ・ワークショップで、まずは市民が自分たちのまちを知り、その魅力を発信し、広めていこうという意見が多く出ており、そのために市民を対象とした観光施策を講じることで、シビックプライドの醸成を更に推し進めていききたいと考えている。
- ・もう1点は、この地域資源を次世代につないでいくため、資源の保護・保全の考えを組み込む必要があると考えている。

【南副委員長】

- ・計画期間について、資料1では、第1次計画は10年、第2次計画は5年となっているが、第3次計画は10年間とするのか。また、10年間にすることによって、ほかの産業振興関連計画と計画期間は一致するのか。

【事務局 吉田課長】

- ・長期的な目指すべき方向性を定め、それを基にして具体的な政策を展開していくイメージであるため、第3次計画は10年間とすることを考えている。ほかの産業振興関連計画も同様に、10年間で調整している。

【嶋田委員】

- ・資料1の別紙における施設別の入込客数の順位で、石狩浜海水浴場が平成27年度では3位であったのに対し、令和元年度では圏外となっている。人数も約10万人減っているが、その要因はどのようなことが考えられるか。

【事務局 本間部長】

- ・海水浴は天候に大きく左右され、令和元年度は、土日の天候が悪かったと記憶している。

【岸本委員】

- ・資料説明でもあったとおり、新型コロナウイルス感染症により札幌近郊の観光客が多くなっているため、そこを対象とすることも大事だが、東京などの首都圏に対して、首都圏では味わえない地方の特性などをPRすることも重要である。
- ・アウトドア需要が高まっていることから、厚田キャンプ場や川下海浜公園を管内で一番と言われるように整備を進めるとともに、知名度を高めていただきたい。

【平塚委員】

- ・周遊ルートや人の導線は様々な工夫が考えられるが、その中で危機管理的なことは何か検討しているか。

【事務局 吉田課長】

- ・昨年度は秋の三大祭の開催や海水浴場の開設を中止してきたところであるが、現在はある程度感染対策が見えてきたことから、イベント等を実施するにはリスク管理や感染対策を講じることが重要である。
- ・今までは人を集める観光が主であったが、コロナ禍による新たな動きとして密にならないように人を呼び込む新しい動きが必要となっている。
- ・明確な対応策を示すことは難しいが、事業者の皆さまと連携して考えていきたい。

【久保田委員】

- ・札幌から来た方が、石狩に入った途端に閑散とした雰囲気となると言われることから、道路の沿道に花を植えるなど、まちを明るい雰囲気にすることも大事である。

【事務局 吉田課長】

- ・花いっぱい運動により沿道の花壇の整備が町内会ごとに実施されている。
- ・シビックプライドという言葉のとおり、市民が自分たちのまちの魅力を感じて、自分たちでその魅力を発信していくという機運を高める必要がある。

令和 3 年 8 月 26 日 議事録確認
第3次石狩市観光振興計画策定委員会

委員長 秋井 卓也